

編集後記

2024パリ五輪が開催され、スポーツ紙一面を賑わせている。フランスは近代五輪史において最も重要な役割を果たしてきている国である。第1回開催は古代オリンピック発祥の地、アテネ（1896）であることは皆さんご存知かもしれないが、第2回開催地がパリ（1900）である。近代五輪はパリで提唱され、アテネを第1回の開催地とし、4年に1度の開催と決定したのである。あの五輪のシンボルマークもフランス人の考案で1920年大会から使用されている。その後、1924年のパリ五輪で選手村（今年は選手には不評のようだが）を導入し、同年シャモニーで史上初の冬季五輪が開催される。1968年グルノーブル大会では史上初のマスコットキャラクターが登場し、1992年アルベールビル大会で初のパラリンピック同時開催を行うなど、まさに近代五輪の仕掛け役となっているわけである。2024パリ大会では何を仕掛けてくるのだろうか。学問も医療もすべて革新ありきの伝統でなければやがて廃れてしまうということを近代五輪の発展が教えてくれる。

（武田充人）